

# 2023仙台市議選 立候補予定者 こども子育て政策に関するアンケート

回答者名【 ごとう咲子 】 立候補予定選挙区【 泉区 】

問1. 仙台市では、保育所の空き定員等を活用した未就園児の定期的な預かりモデル事業を行っていますが、どのように評価していますか。

利用調整や保護者との関わりについての知見を積み、課題や効果の検証を行うという理念は理解できるので、実施の結果をしっかりと生かしてほしいと考えます。また、だれでも保育が受けられる制度作りのために、現場ではどれぐらいの体制が必要なのかをこの事業を通して明らかにすることも忘れずに行ってほしいです。

問2. 仙台市発達相談支援センター(アーチル)が、受付から相談対応まで最大4ヶ月かかることに対して、どのようにお考えですか。

実際にアーチルから支援につないでもらった経験のあるものとしては、4カ月待ちは長いと感じます。アーチルに連絡をする段階では、すでにある程度思いつめた状態になっていると予想できますし、小児発達の専門医での初診受付は非常に限られており、頼る先を見つけるのはかなりエネルギーが必要です。アーチルはすぐに相談が受けられるよう、もっと体制を厚くするべきと考えます。

問3. 厚生労働省は、インクルージョンを推進していく上では、児童発達支援と幼稚園・保育所等との併行通園を推奨していくことが重要としていますが、どのようにお考えですか。

幼稚園と児童発達支援事業の平行通園を利用していたものとしては、その有効性をとても強く感じています。一方で、幼稚園・保育園でも児童発達支援施設で行われるような対応や場づくりがなされれば、あらゆる子どもにとって過ごしやすい園になるとも考えます。保育所等訪問支援を通して、最終的にはあらゆる保育・教育の場で子どもの発達に関する知識が深まりどのような子にも対応できる場をめざすことが必要であると考えます。

問4. 仙台市には、障害のある子どもを保育園に預けたくても預けられず、就労を諦めている人が一定数おります。この現状についてどう思われますか。

障害のある子のケアにはお金がかかるという現実もあります。保護者の今後の人生のためにも収入や社会的役割がある事は重要なことと思います。希望する方は就労できるような行政の支援は必要です。一方、企業側も既存の働き方にこだわらず柔軟な体制づくりを進めてほしいと考えます。

問5. 仙台市の医療的ケア児の保育所受入れ人数は100万人当たり4.6人で、政令指定都市20都市中17位です。この現状についてどう思われますか。

政令指定都市の中では下位であることを残念に思います。あらゆる人が医療ケア児の保護者になる可能性があるのですから、他都市のよい取り組みに学んで体制の拡充に乗り出すべきです。

問6. その他、コメントあればお願いいたします。